

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100459		
法人名	有限会社ライフ・シップ		
事業所名	嘉瀬紀水苑		
所在地	佐賀市嘉瀬町大字荻野698番地		
自己評価作成日	令和2年2月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年3月26日	外部評価確定日	令和2年4月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用様、ご家族様が「嘉瀬紀水苑で良かった」と思ってもらえるように支援に努めています。また、「楽しく」「なごやか」「すこやか」をモットーに、ご利用者様と全職員が、日々一緒に過ごし暮らせるようにしています。天候の良い日の日課の近隣散歩に出かけて季節を感じてもらっています。外出支援で森林公園、初詣(伊勢神社)、佐賀空港見学、ひまわり、コスモス、彼岸花、桜見学、嘉瀬川ダム見学等に出かけました。地域の方との交流でおしるこ会、地域の子供たちとクリスマス会や中学生の福祉体験に来苑してもらいご利用者様と一緒に楽しいひと時を過ごされました。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>苑長が手塩にかけた何種類もの花々が出迎えてくれる。玄関へのアプローチや建物周辺にも置かれ、利用者だけではなく近くを通る方々も和ませている。法人代表者でもある苑長は隣接して自宅があり、特に夜勤職員には心強い。事業所では利用者との外出も多く、日常的な周辺への散歩はもとより、ドライブ等も頻繁に実施している。地域に暮らす一員として役に立つ事があれば協力を惜しまず、事業所ならではの貢献が出来るよう努めている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を全職員とつくり、その理念を共有して実践につなげている。	理念は目に付く場所に掲示され職員への意識付けを図っている。「楽しく」「なごやか」「すこやか」が思いを端的に表した部分であり、そう過ごしてもらうためには何が必要か、どういうケアが望ましいかと考え実践している。日々の関わりの中で立ち戻る基本としているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会への参加や「子供110番」、地域の子供達とクリスマス会、地域交流「おしるこ会」を開催させて貰い、地域の方が気軽に苑に来ていただけるよう日常的に交流している。	自治会に加入し、地域の清掃活動等にも積極的に参加している。隣に住む苑長自身が慣れ親しんだ土地柄であることは利用者にとっても暮らしやすい環境を築いている。花や野菜を届けてくれる住民や散歩の先々で声を掛けてくれる住民など、事業所は既に地域の一員として認知されている。苑の行事に招き積極的に交流に努めていることも功を奏している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて高齢者の方々に暮らしに役立てることが無いか話し合い、地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご利用様、ご家族様、地域包括支援センター様、民生委員様、自治会長様、のご出席して頂き、自己評価報告や苑だより回覧されて色々なご意見並びにアドバイス等頂きサービス向上に努めています。	約一時間の会議である。全ての家族に案内を出し参加をお願いしているが、平日では難しいところもある。次年度は週末開催でも行政側の出席が望めるため、曜日によっては家族にも参加を期待している。事業所からの報告に終始するのではなく、出席者からも自由に意見を出してもらえよう努めている。雑談の中にサービスに活かせるヒントがあったりもする。またメンバー同士が顔見知りとなり相談し合う場面もある。同日に避難訓練や近隣住民(子供達含む)を招くクリスマス会等を行っているのも特長であり、事業所を知ってもらい理解と支援を得る機会となるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みなどを積極的に伝えながらまた、苑で出来る事などを伺い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議のメンバーでもあり日頃から顔なじみである。問い合わせ等があれば電話を掛けたり、直接出向き情報を得ている。入居していても利用できるサービスや、他事業所の良い例を教えてもらい活かしている。実直に対応してもらえる関係は築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が勉強会、研修会で身体拘束をしないケアを理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間の戸締りのみです。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は身体拘束の内容とその弊害も理解している。玄関に施錠はなく、職員の目配り等で安全な暮らしが支援されており、常に人数を数える習慣もある。外へ向かう利用者には無理に引き返す事はせず、暫く一緒に歩く事を基本としている。行動を抑える事はない。身体拘束をしないケアを旨とし、現在その事例もない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が勉強会、研修会で高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者様の身体の状態を入浴時に観察して防止に努めています。また言葉遣いも注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会で、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要な方には活用されるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様やご家族様との契約の締結、解約又は改定等の時は、十分な説明を行い理解と納得が得られるように、又、不安や疑問点を尋ねて理解と納得をして頂くように図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用様やご家族様等が意見や要望、ご不満、苦情など言って貰えるような雰囲気づくりに努めている。又そのことを運営に反映させている。	家族の来所は多い。事業所では直接会話が出来る機会を大切にしており、世間話も交えながら何でも話してもらえよう努めている。また毎月の苑だよりには日常の様子が伝わる写真と利用者毎の近況を添え、なかなか来れない遠方の家族にも配慮している。今回、当外部評価の一環で行った家族アンケートには厳しい意見もあったが、本来、事業所には率直な意見にも前向きに活かす姿勢があり、再度それを伝えられる機会になればとも考えている。今後も家族には気軽に話してもらおう事を期待し、出された意見はサービス向上に繋げようとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の意見や提案を聞く機会を設け勉強会後のミーティングの時の意見や提案を運営に反映している。	苑長は毎朝の申し送り時には必ず参加し、全体を統括する立場としても現場の声には耳を傾けている。毎月の職員会議では休みの人も出席し、利用者毎のカンファレンスや勉強会等が生まれ、意見は自由に交わされている。法人代表者でもある苑長としては働きやすい職場であるよう配慮も必要で、休暇希望や勤務変更等には出来るだけ応えるようにしており、定時での帰宅も可能となっている。また日頃から職員とのコミュニケーションも大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況などを把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働いて貰えるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながら学ぶ事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会をつくり、勉強会相互訪問など活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人が困られていること、不安なこと、要望などを聞く機会を持ち、ご本人の安心を確保できるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族様等が困られていること、不安なこと、要望などをよく聞く機会を持ち、ご家族様などの安心を確保出来るように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、介護保険申請がされていない方、医療的に必要な方、施設に慣れるか心配な方などに、適した対応の方法をご説明し支援を見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒に過ごし喜怒哀楽を共にし、ご利用者から、色々と学ぶ機会が多く、暮らしを共に過ごし支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問があり、一緒に外出され買い物、墓参り、自宅に行ったりされ本人とご家族の絆を大切にしながら、共にご本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にされてきた馴染みの方、ご近所の方住職の方等との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居までの人間関係の把握には本人や家族、担当のケアマネージャーや利用していたサービス事業所、場合によっては病院関係者からも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援として、電話の取り次ぎや手紙の投函、また家族の協力を得ながら盆正月の帰宅や墓参り等が挙げられる。家族と一緒に外出して買い物をする利用者もあり、事業所で暮らしていても関係は継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立されないよう利用者同士が関わり合い、また、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、バルーンが飛ぶ時期に来苑されたり、差し入れを頂いたりしてこれまでの関係を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。全職員で情報を共有し、ご本人の意向に出来るだけ沿うように努めている。	利用者が想いを話してくれるのは、入浴中の寛いだひとときや隣で話し相手をしている時などに多い。職員はスキンシップや選択肢を示す話し方で想いを引き出している。また発語の少ない利用者からでも、外の空気に触れながら散歩をしている時には聞ける事がある。聞き取った事は口頭や連絡ノートで共有され、そこからケアプランに反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、情報収集し生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事業所用方式アセスメント表を用いて、ご本人がより良く暮らして頂けるように、課題とケアのあり方について、ご本人、ご家族、必要な関係者と話し合い、モニタリングし、それまでの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランの見直しは、入居して間もない時期は毎月、その後、3か月毎、6か月毎と状況により設定される。その間に変化があれば臨機応変な対応である。本人の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取っている。家族からは現状維持を願う声が多い。事業所では何にでも手を貸すのではなく、日常の動きそのものがリハビリとなり、残存能力の維持へと繋がる事を踏まえたプランを練っている。日々の実施記録簿は、見開き状態で一人分となるファイルを使い、ケアプランに限らず一目で分かりやすい仕様である。また毎月末にはケアマネージャーによるモニタリングも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様お一人ひとりを支えるために、ご家族の状況、その時々生まれるニーズや要望に対応して、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様お一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、地域のボランティア、民生委員、消防署、消防団等の方と協働しながら、ご本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医が、往診、受診されて事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は本人や家族が希望する医師へお願いしている。以前から通っており自身をよく知る医師を選ぶ方や、入居を機に協力医への変更を希望した方など様々である。事業所ではそれぞれに出来る限り対応している。職員が受診に付き添う場合は、その前後に家族へ連絡をする事としており確認と結果報告がそれである。また症状によって病院を探す場合も、まず本人や家族に希望を尋ねている。健康面や医療面でも適切な支援が出来るよう努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、身体状態、経過等を看護職員や訪問看護師等に伝えたり、相談したり、ご利用者の健康管理や医療活用の支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された時は、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。またそうした場合に備えた連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用時の早い段階から、ご本人、ご家族等との話し合い、重度化した場合や終末期の看取り指針について事業所で出来る事等を説明し同意を得ている。かかりつけ医と地域の関係者と共に支援に取り組んでいる。	入居契約時に指針の説明を行っている。これまでに看取りの経験はないが、今後、希望があれば応えていこうと考えている。そのためには体制を整えておく事も必要で、職員向けのマニュアルや家族向けの冊子(徐々に身体機能が低下していく状況を説明したもの)等々も検討している。容態の変化に伴い家族の気持ちは揺れ動く事も踏まえ、話し合いは何度でも重ねる事としている。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備えて、全職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害や地震、水害等の災害時に備えて利用者様が避難できるように訓練を全職員が身につけるように、地域との協力体制を得られるように努めている。遠くの避難所より近くの住宅に協力要請築いている。	年2回、そのうち一回は消防署の立ち会いがあり、運営推進会議と同日のため会議メンバーの参加もある。昼間帯に実施し夜間は想定のみだが、職員配置を夜間状態とみなし一人で試みている。利用者も一緒に避難を体験し、職員は消火器の使い方も承知している。自動火災報知設備が導入され、火災作動すれば自動的に消防署へ通報される。非常食や水等は隣接する苑長宅に備えている。近隣住民は高齢者宅が多くなり、敢えて参加協力の依頼はしていない。消防署へ通報が届けば地元消防団への一斉メールが流され、団員からの応援も頼りとしている。訓練での反省点や気付きは当日に話し合っているが、居室から避難済みの証をどう表示するかは検討中である。また緊急時の避難場所は改めて家族にも周知する予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格の尊重し、誇りやプライバシーに配慮しながら、言葉かけや所在の把握を確認しながら安全に過ごされるよう対応している。	トイレや入浴の介助では羞恥心への配慮が求められる。事業所ではトイレのカーテンはきちんと閉める事、居室ではノックをする事等々、基本的な事をおさなりにすることなく努めている。接遇の研修もある。また個人情報の取り扱いに対しては、苑だより等への写真掲載や居室の名札に至るまで入居時に承諾を得ており、業務上のやり取りであっても声の大きさにも注意を払っている。意識は高いことが窺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の希望や思い、自己決定が出来るように働きかける。自分で決めたり、納得されながら暮らされている。強制や押しつけの支援とならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れは決まっているが、お一人ひとりペースを大切に、体調状態、気分 に配慮しながらご希望に沿った支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい理美容は、訪問にて支援させていただいている。利用者様も気にいっておられる。身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事になるように一人ひとりの好みや形態、量等、力を生かしながら、利用者様と職員と一緒に食事、下膳などしている。	その日の当番職員が献立を考えている。利用者に食べたいものを尋ねたり、冷蔵庫の中身からであったり、最近の献立と重ならないよう、昼は肉、夜は魚をメインに工夫している。好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な献立や食材には代替も用意される。食が細い方には医師の処方による高カロリー食もある。職員は利用者と一緒に同じものを食べながら、介助が必要な方には時折箸を置き対応している。利用者の中には下膳や片付け等を手伝う方もある。また細かく刻むなど、それぞれの状況に応じたケアがごく自然に行われている。誕生日は当日に祝い、手作りのケーキも用意される。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の一人ひとりの食事摂取量や栄養バランス、水分量(食事以外で1,000cc)が1日を通じて補給されるように形態、品を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアをお一人ひとりの口腔状態やご本人の力に応じた口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉掛けやトイレ誘導が必要な方等、支援している。ご本人の習慣を活かしてなるべくトイレでの排泄や排泄の自立に向けての支援に努めている。	排泄に関して自立した利用者もいるが、任せたままでなく、さりげなく見守っている。日中はトイレでの排泄が主であり、車椅子利用者でも同様に支援している。チェック表があることで誘導のタイミングが計れ、入居後に改善した例もある。オムツからリハビリパンツや、リハビリパンツから普通の下着になった方がそれである。職員のケアが功を奏したもので、これは利用者にとって費用負担の軽減にも繋がっている。トイレ内には手すりや、ひじ掛けと背もたれが一体化した補助具が設置され自立を助けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や運動への働きかけ等、に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴はお一人ずつ、ゆっくり入っていただいている。希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんで貰えるように安全に配慮し、支援している。	入浴は週3回を目途にしているが、この他に希望があれば昼間帯での支援は可能である。また拒む方には無理強いせず、タイミングをずらしたり、職員のテクニックで対応している。入浴しない日には清拭やシャワー等もでき、下着肌着の交換は状況に応じて行っている。冬場は脱衣場の暖気を浴室へも送りヒートショック対策としている。ひとりずつ寛いでもらう中で想いが聞けることもある。衣服の脱ぎ着や体を洗う時など出来るだけ本人に任せ見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、休憩、睡眠を取って貰っている。安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めて、服薬の支援と症状の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、好きなこと、気分転換、散歩や買い物、気晴らし、外出支援、嗜好品などの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には、戸外に出かけて近隣散歩、苑庭花見や、ひまわり見学、桜花見、空港見学、コスモス見学、森林公園散策、などに出かけて支援している。また希望を把握し、家族様や地域の人々と協力しながら支援している。	利用者から外出の希望が出る事もあり、事業所では周辺への散歩はもちろん、ドライブ等も頻繁に実施している。法人が所有する車椅子対応車両がすぐに用意できることも助けとなっている。天候や体調をみて当日に決まり出掛けることもある。いつの間にか五感の刺激となり、日差しを浴びるメリットも受けている。運営推進会議の折に、買い物をして支払いをする経験を提案され実施に向け検討している。事業所にとって外出は日常的なことであり、全く外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理できる所持金。ご家族様の要望に応じた支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	馴染みの方へのお手紙の支援、ご家族様や大切な人に電話をしたりできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	幹線道路沿いのために車音、暴風音等の騒音防止で二重サッシ窓、ホールの天窓から優しい光を取り入れている。また季節のポスター、大きな暦を設置し見えるように工夫している。	自己評価にある通り、窓の二重サッシや天窓からの採光、また天井の換気設備等によって過ごしやすい環境が整えられている。午後のひとときをトランプゲームで楽しむ複数の利用者もみられた。最近、壁紙が新調され明るい雰囲気も増している。対面式キッチンからは調理の音や匂いがして食事時を知らせている。利用者の動線上に行動を妨げる物もない。手すりなど手を触れる箇所での消毒もこまめに行っている。トイレがドアではなくカーテンになっているが換気扇を回し不快な臭いが流れないように配慮している。浴室共にきれいに掃除され、窓を開ける換気は居室も同様に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士が、思い思いに過ごされるようにソファや椅子を利用して過ごされている。独りになれたりして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人やご家族様と相談しながら、馴染みの物、仏壇、好みの物、囲碁、将棋、テレビを持参されている。ご本人が居心地よく過ごされるように工夫されている。	居室は通常より少し広めの約7畳で、持ち込む品物には火気等の危険物以外に制限はしていない。仏壇を持つ利用者は毎朝、自分で仏飯を供えている。殆どの利用者は四季分の衣類を保有し、衣替えは担当職員が手伝ったり任せてみたりと状況次第である。寝具類は業者による洗濯や事業所で管理し天日に干す物もある。写真等を飾って居心地良く過ごしてもらえよう心掛けてもいる。家族が希望すれば居室での宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない